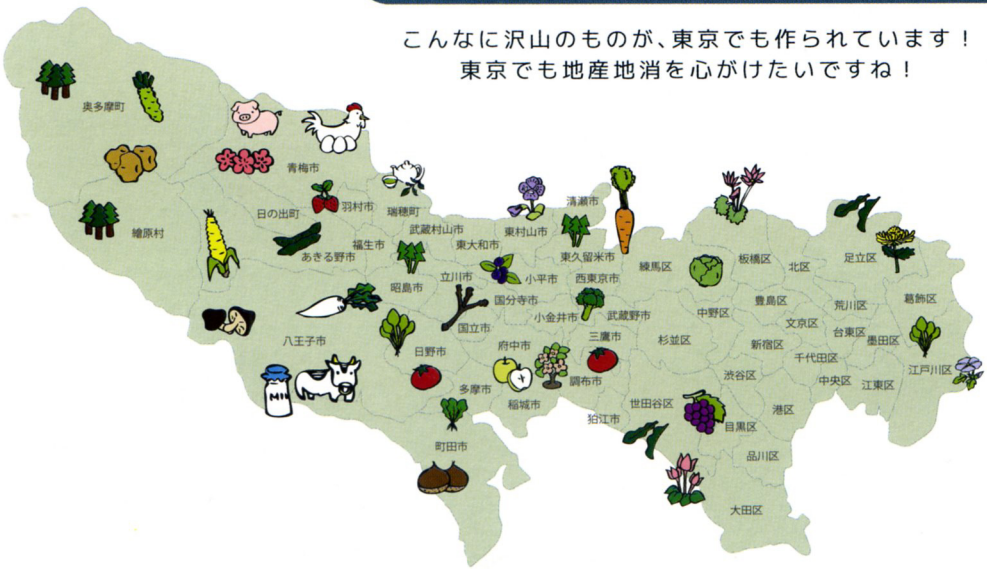
東京野菜
STYLE

yasai-style.net

特定非営利活動法人おいしい水大使館

東京で栽培・家畜しているマップ

こんなに沢山のものが、東京でも作られています！
東京でも地産地消を心がけたいですね！



お江戸から始まる『東京野菜』

昔々、江戸時代の中頃、
お米が効率的に生産されるようになった事をきっかけに、
朝・昼・晩と一日に三度お米を食べる習慣が定着しました。
食生活の変化に伴い、その結果、色々な病が蔓延。
幕府は野菜摂取を奨励したのです。
参勤交代で江戸に屋敷を構えていた各地方の殿様は、
それをきっかけに、敷地内に農場(下屋敷)をつくり、
自領地の農民から、野菜の種を取り寄せ、野菜作りに励みました。
その結果、お陰で江戸は全国一の野菜生産地になったのです！
現在もその一部の野菜が『江戸の伝統野菜』として栽培、出荷されています。

江戸時代の野菜の売り方は立体的で演出が優れていました。
その理由は、一般庶民は新しく見る野菜が
「どんなものか・どのように料理するのか・味はどうか」など、
情報がなく、買ってどう食べれば良いかが解らなかったのです。
そこで、野菜の売り手は一部始終丁寧に説明しました。
それが現在でも有名な『振り売り・口上付きの売り方』です。
口上は産地、特徴、食べ方、効能、保存の仕方など、リズム良い歌やパフォーマンスで
人を引きつけ、興味を持ちながら理解できるように作られています。
(例 / がまの油売り、七味とうがらし売りなど)

東京野菜スタイルとお客さまの関係

私たちは東京野菜を、広く教え伝える方法として、
八百屋さんやスーパーの様に並べ、買っていく普段の売り方ではなく、
お客さんに『生産地・生産者・品種』などを知っていただき、
『なぜ、安全なのか・なぜ新鮮なのか・おいしさのわけ』を
丁寧に説明し、更に調理をしてみせて、食べてもらい、納得してもらうなど
立体的に演出して販売する手段を行ないます。
先達の江戸時代の野菜の販売方法を学んで、実行していく
『デモンストレーション販売』という形を取っています。

私たちのデモンストレーション販売の心意気は

- 買う人 食べる人の 気持ちになる
- 価格・数量での 競争はしない
- 納得、共感して 満足してもらう
- ムダなく 欲しいものを 必要なだけ
- 野菜好きに！

常にお客様の目線と立場になって
楽しく団らんできるような安全・美味しい野菜を提供していく事が

『東京野菜スタイル』

yasai-style.net

特定非営利活動法人おいしい水大使館